



# 栄中だより

栄中開校58年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校  
令和3年度5月号  
令和3年5月7日

## 創造力を伸ばす

～棋士 羽生善治さんの挑戦～

校長 今泉 正之

一年で最も爽やかな、まさに薫風を豊かな木々の間から感じられる季節になりました。本校は多くの木々に囲まれ、教室に吹き込む風を感じながら生徒は学校生活を送っています。4月28日(水)から草加市もまん延防止等重点措置の地域となり、部活動にも制限がかかる中、4月30日(金)に部活動保護者会にあわせて、昨年度は行えなかった学校公開(保護者対象)をマスク着用や時間の短縮、授業は原則廊下からの参観という形ではありましたが実施し、230名の保護者の方にお出でいただきました。ありがとうございました。特に第一学年は74%の保護者の方が、学校公開・保護者会に参加してくださいました。御協力いただいた保護者アンケートは内容をまとめ、教職員で共有させていただきます。今回は、重点措置の対象となったことで実施するかどうか迷った中でしたが、日常の学校の様子を保護者の皆様に見ていただくことは必要と考えて実施いたしました。これからの行事についても、生徒の成長を促進する教育的観点・地域の中の学校としての観点到感染防止の観点、働き方改革の観点などを考慮し、実施の可否や内容の見直し・変更を行ってまいります。御理解と御協力をお願いします。

さて、先日NHK BS放送で「ザ ヒューマン」羽生善治 天才棋士 50歳の苦闘(再放送)をみました。藤井聡太さんの活躍によりマスコミで話題になることが多かった将棋界ですが、自分にとって天才棋士といえば、やはり羽生善治さん。通算勝利数歴代一位、全タイトルを独占する七冠だけでなく、永世七冠でもある羽生善治九段が、若手棋士の台頭により、タイトルを奪われ三年。若手の台頭はAIを駆使した研究によるものです。現在のソフトは膨大なデータを蓄積するだけでなく、自己対局を繰り返して、勝つ可能性の高い手を自力で学んでいくといい、将棋の「流れ」とは関係なく、その局面での最善の一手を選んでくるといいます。羽生さんはその無冠の時に家族と新たな時間を持つなどして、心身をリフレッシュし最先端の将棋に向き合いながらAI世代の感覚を吸収し新たな挑戦を続けていきます。そしてAIを活用しながらも、水泳にたとえ「バサロ(水に潜ったままで水中を進む泳ぎ方)は速いけれど、それだけで最後までいけない。」テニスにたとえ「テニスのラリーと一緒に、難しいところに打たれたのを返すことができればうれしい。」と、前を向いて挑戦し続ける姿に感動するとともに、AIにはない人間の創造力をみた思いがしました。

私たちの日常生活においても、その局面でのベストが必ずしもその先でベストとは限らないことがあると思います。その時ベストと思ってもその後悪い展開になることもありますし、失敗という中から大発明が生まれてくることもあります。というより多くの失敗の中からは、創造的な発見はないのではないのでしょうか。それは無駄な道、まわり道に見えるかもしれませんが、直線的に自分の道を歩むのではなく、このまわり道をしながら学ばせることも、個性や創造性を伸ばす学校の役割なのではないかと思うのです。

